



今号の内容

- ・ 2007年総会報告
- ・ 2006年度災害救援プロジェクト報告
- ・ 草の根技術協力事業の報告
- ・ ペルー地震ご支援のお願い

2007年度総会報告

6月17日(土)、三宮のサロン・ド・あいりにて2007年度総会が開催されました。正会員名、オブザーバー名の合計19名が出席しました。2003年12月に特定非営利活動法人(NPO法人)の認証後、4回目の総会となります。

議案である2006年度の事業報告・決算、2007年度事業計画・予算について審議が行われ、すべて承認されました。

2007年度の主な事業予定をご紹介します。災害救援活動として、イラン支援、アフガニスタン支援、スマトラ沖地震津波支援、ジャワ島中部地震の支援など継続支援中の救援プロジェクトは、引き続き取り組みます。(各事業の詳細については今後のCODEレターで報告していきます)また、支援が必要とされると判断される災害が発生した場合は、随時救援活動を立ち上げていきます。

また、今年度からJICAの草の根技術協力事業(地域提案型)として、アフガニスタンのぶどう農家の方々を研修生として招き、日本の農業、加工技術を学んでもらう研修プログラムに参加しています。

セミナー・勉強会として、各分野の講師を招く、『NPOことはじめセミナー』や神戸市内にある国際機関を訪問する『HAT神戸内国際機関訪問ツアー』を実施します。またCODEの事業促進に必要と思われるスタッフのスキルアップのための研修への参加、ボランティア文化の普及や市民参加の場を提供するためのボランティアの日を隔月で運営する予定です。

また、災害関連情報の収集及び発信事業として、災害情報サイト(CODE World Voice)の運営やメーリングリストを活用して、学習、交流の場を提供していきます。

最後に、今後ともみなさまからのご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。

(総会報告についての詳細が御必要の方は事務局までご連絡ください。)

< 2007年度運営体制 >

代表理事：芹田 健太郎 神戸大学名誉教授/愛知学院大学教授

副代表理事：室崎 益輝 神戸大学名誉教授/

消防庁消防大学校消防研究センター所長

副代表理事：水野 雄二 (財)神戸YMCA総主事

理事：黒田 裕子 支援プログラム部会長/阪神高齢者支援ネットワーク理事長

理事：島田 誠 アートサポートセンター神戸代表

理事：西 正興 (株)神戸スイーツサポート相談役

理事：野崎 隆一 ガイドライン部会長/神戸まちづくり研究所事務局長

理事：秦 正雄 市民参画部会長/コープこうべ常勤理事

理事：楳木 恵子 人材育成部会長/関西NGO協議会事務局長

理事：藤野 達也 (財)PHD協会総主事代行

理事：松本 誠 市民まちづくり研究所所長

理事：村上 忠孝 財務部会長・村上環境住宅研究所所長

理事：吉富 志津代 多言語センターFACIL代表

監事：中川 和之 時事防災リスクマネジメントWeb編集長

監事：飛田 雄一 (財)神戸学生青年センター館長

理事兼事務局長：村井 雅清 被災地NGO協議センター代表

本年度もよろしくお願い致します。

2006年度災害救援プロジェクト報告

(2006年度事業報告から抜粋)

アフガニスタン救援プロジェクト

【2002年7月17日からの継続事業】

2002年7月からスタートしたアフガニスタンのぶどう畑再生プロジェクトは4年が経過しました。



(ぶどう畑にて 2006年5月)

2006年度は5月に現地を訪れてから、その後のアフガニスタン国内の極端な治安悪化により、訪問することができませんでしたが、1年目のぶどう基金の貸し付け家族、288世帯からスタートしたこのプロジェクトも、現在では412世帯まで増えています。

イラン南東部地震救援プロジェクト

【2003年12月26日からの継続事業】

地震発生以来継続してきた、被災地バムにおける「コミュニティセンター」や音楽教員養成事業などは順調に進んでいます。特に音楽教員養成事業では、サイド先生が教えた、一人の先生が現場で教える側になるという成果も見えてきました。一方、センターでは、子どものカラテ教室や、女性を対象にした縫製教室が続けられています。圧巻はサイド先生が同センターの中に、大きな人形劇の舞台をつくり、脚本から実技指導までして防災教育を行っていることです。今後の課題は現地のスタッフによる運営の継続に移ってきていますが、センターの自立的な活動も少しずつ育ってきている様子が見えます。バムの復興歌「ペルシャ語版しあわせ運べるように」が収録されたCD、テープを制作する計画を立てていますが、諸事情のため次年度に持ち越しになりました。

スマトラ沖地震津波災害救援プロジェクト

【2004年12月26日からの継続事業】

スマトラ沖で発生した地震とそれに伴う津波の被災地への支援を開始して2年が経過しました。CODEの支援継続対象国はスリランカのみになりました。2006年2月から、スリランカYMCA同盟と国連ボランティア計画との3者による防災教育を展開し、2006年末に終了しました。

また幼稚園・保育園再建支援は、南部のヒッカドゥアの保育園建設を一軒残すのみとなりました。漁



業組合への支援については、東部(トリンコメリー)と南部(クダワラ)にそれぞれ一隻の船を提供し、組合の共同管理・運営としています。

(防災マップ作り 2006年5月)

パキスタン北東部地震救援プロジェクト

【2005年10月8日からの継続事業】

2005年10月8日に発生したパキスタン北東部の地震に対して、中長期の支援プログラム決定に向けた現地訪問、調査を進め、決定した事業「女性の生活向上を伴う職業訓練センター」の建設の調整にほぼ1年間を費やしました。年度末に再度現地を訪れたところ、建設予定地も決まり、CBO(住民組織)委員会は



(作業場で作品を作る女性たち)

はじめ女性たちもCODEを通して、日本のみなさまの支援をたいへん喜んでくださっていることが確認できました。

フィリピン・レイテ島地滑り災害救援プロジェクト

【2006年2月17日からの継続事業】

2006年2月17日にフィリピン、南レイテ島で地滑りが発生しました。CODEは阪神・淡路大震災時からの縁のあった方が所属する「ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン」を通して、



住宅の建設(スチールフレーム住宅)の支援が終了しました。(建設中の住宅 2006年8月)

ジャワ島中部地震救援プロジェクト

【2006年5月27日からの継続事業】



(耐震住宅 2006年9月)

2006年5月26日に発生した地震を受けて、救援プロジェクトを開始しました。ジャワ島中部バンドゥール県パングンタパン市ウィロケルテン村ボトクンチェン集落の全半壊家屋25軒の耐震住宅再建支援を行いました。建築家のエコ・

ブラウオットさんの名にちなんで”エコ・プロジェクト”と名付けられたこの耐震住宅再建プロジェクトでは、地域で育った竹やヤシの木を建築資材とし、地震で壊れた家から使えるレンガやコンクリート・ブロックや材木などを再利用した住宅を再建し、まさに環境と、地域コミュニティを重視した再建が進み、2006年10月に完成しました。

タララ村の子どもたちからのメッセージ

スリランカのタララ村で防災教育を行い、そこで出会った子どもたちが、自ら立ち上げた、「プラトナ・チャイルド・クラブ」から、1月17日、KOB Eに子どもたちからのメッセージと絵画が贈られました。子どもたちが、それぞれの想いで描いた「プラトナの獅子」と、「この絵画を通して、タララ村とKOB Eが同じ痛みを持つ者として、「希望」という糸で織り込まれた「KIZUNA」で結ばれて、優しさの共有が深められたらと願う。」というメッセージが届けられました。絵画はその後地震のあった、能登半島の穴水町にも送られ、「KIZUNA」の糸が結び目を作り、広がりました。



(穴水町に贈られた絵画)

スリランカではライオンは勇気、行動力、力、智慧、リーダーシップの象徴になっていて、プラトナ(希望)の獅子としてあがめられています。

”CODEの夕べ” 開催

6月17日に行われた総会の後、CODEの夕べ～楽しい食事と报告会～を、神戸の三宮にある、家庭料理の店、”サロン・あいり”でアットホームな雰囲気の中行われました。CODEの若手スタッフ、ボランティアが中心になって、CODEが進めている、スリランカ、パキスタン、アフガニスタン、ジャワ島中部での災害支援プロジェクトの報告を、写真や動画などを織り交ぜた手作りスライドを使って報告しました。

CODEの夕べには、理事、会員やボランティアさんを含む20数名の参加があり、食事を食べながらのみなさんの交流の場となりました。

草の根技術協力事業

JICAへの申請プロジェクトとして、日本の栽培、加工技術などを学んでもらう3年間の研修プロジェクトが始まりました。



(石垣積み体験の様子 7月10日)

以前からCODEが継続的に支援を続けて

いる、アフガニスタのミールバチャコット地区のぶどう農家から7名が来日し、この地域提案型事業のパートナー自治体である兵庫県佐用町で、約1週間の研修を行いました。1日目は、伝統的な棚田の水利用の見学や石積み体



(ぶどう農家の見学 7月11日)

験をしました。2日目は、ぶどう農家の方との交流、佐用町のぶどう栽培政策について説明を受けました。4日目は、町内の関連施設を見学しました。5日目は、山梨県で日本で唯一

ぶどうの有機栽培をしておられる澤登早苗先生から、持続可能な農業である有機栽培の大切さについてお話いただきました。6日目は農産物加工施設の見学、大豆からの加工品として、味噌づくりの見学、豆腐づくりを実体験をしました。地元佐用町の方々との交流の場もあり、たいへん有意義な研修となりました。この事業は来年以降、継続実施していきます。



(豆腐作り体験の様子 7月15日)

ペルー地震ご支援のお願い

8月15日午後6時41分(日本時間16日午前8時41分)ごろ、ペルー南部を中心に、マグニチュード7.9の強い地震が発生し、現地からの情報



によると、死者610(被災したイカ市 8月17日ロイター)人、被災者は20万人以上という大きな被害がありました。

今年は特に寒さが厳しく、家を失った人々の健康状態が懸念されるなど、被害の深刻さが伝えられています。また都市部によっては、略奪や混乱が起こっていることも伝えられており、被災者への支援や復興が遅れることも懸念されます。このペルー地震に対して、CODEの理事の吉富志津代さんが関わっている、南米スペイン語圏の外国人の団体、「ひょうごラテンコミュニティ」が、地震発生直後から、現地の知人、友人を通して情報を集め、支援活動を行っています。また同団体の代表である大城口クサナさんがDJIを務めている、神戸市長田区にある、コミ

ユニティFM放送局「FMわいわい」などと共同で募金活動を行っています。CODEはこの活動を支援するため、みな



さまからの募金を受け付けております。ご支援のほどよろしくお願ひします。

詳細については、FMわいわいのホームページの中

(「夜宿する被災者 8月18日朝日新聞」の、「ペルー沖地震被災地支援募金のお知らせ」(下記アドレス)をご覧ください。

<http://www.tcc117.org/fmyy/>

- 5月15日 神戸学院大学 社会貢献論 (村井、ゲスト山地久美子さん) CODE理事会
- 5月22日 神戸学院大学 社会貢献論 (村井、ゲスト:本野一郎さん)
- 5月29日 神戸学院大学 社会貢献論 (村井)
- 6月5日 神戸学院大学 社会貢献論 (村井)
- 6月12日 神戸学院大学 社会貢献論 (村井)
コープこうべ総代会出席(村井)
- 6月13日 神戸女子大学で講義(村井)
- 6月17日 CODE総会、CODEの夕べ
- 6月27日 甲南女子大学で講義(細川)
- 6月29日 コープこうべ自然災害基金委員会で報告(岸本)
- 7月4日 甲南女子大学で講義(細川)
- 7月9~18日 アフガニスタン農業研修(佐用町、村井他)
<7月16日 中越沖地震>

活動記録 12/26~7/31

- 1月12日 NGOことはじめ(講師:SVA市川さん)
- 1月13日 災害メモリアルKOBÉ2007に参加(細川)
- 1月15日 IRP「国際津波・地震フォーラム」(細川)
- 1月17日 NHK「生活ほっとモーニング」の生中継
- 1月18日 防災技術展示会(技術士の会)パネラー(村井)
- 1月23日 楠高校で授業(村井)
- 1月24日 楠高校で授業(細川)
- 1月25日 楠高校で授業(細川)
- 1月28日 コープファミリーフェスタ(西宮)(細川)
- 1月29日 楠高校で授業(村井)
- 2月8日 NGOことはじめ(講師:村井)
- 2月10日 箕面生涯学習センター「予防防災」講座(村井)
- 2月13日 兵庫県学生ボランティアミーティング(岡本)
- 2月15日 CODE理事会
- 2月17日 箕面生涯学習センター「予防防災」講座(村井)
- 2月21日 神戸学院大学防災・社会貢献研究会で講演(村井)
- 2月23日 CDCによるJICA委託セミナーに関するヒアリング
- 2月26日 JPF国内災害対応検討WS参加者有志との交流
- 3月5~10日 留学生セミナー(JICAより受託)
- 3月9日 防災士研修 大阪会場(村井)
- 3月16日 コープこうべ自然災害救援基金運営委員会(岡本)
- 3月17日 新宗連青年会近畿連盟ピースフェスタ(村井)
- 3月17~25日 パキスタン地震第4次調査(岡本)
- 3月19~30日 スリランカ・タララ村子どもの絵画展
- 3月24日 災害復興ガイド出版記念シンポジウム(村井)
<3月25日 能登半島地震>
- 4月10日 神戸学院大学 社会貢献論 (村井)
- 4月17日 神戸学院大学 社会貢献論 (村井) CODE理事会
- 4月23日 MBSラジオ「ネットワーク1.17」に出演(村井)
- 4月24日 神戸学院大学 社会貢献論 (村井)
ひょうご安全の日推進県民会議に出席(村井)
- 5月8日 神戸学院大学 社会貢献論 (村井、ゲスト:牧秀一さん) JIBCセミナーにパネラー出演(村井)

ありがとうございます 12/26~7/31

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付

個人: 三島一男、白木士郎、笠置りか、栗原謙治、安部美鈴、相川康子、春日千明、黒田忠、中野愛子、森和子、今井鎮雄、藤原幸子、澤畑結、増田祐保、小林孝信、水島勉、三島宣彦、戒綾子、岡本千明、柳田邦男、鈴木侑、庄司俊恵、岡本牧子、三浦三鈴、成毛典子、増島智子、慶児純子、鶴飼愛子、玉岡昇治、折口富美子、越路由美子、榛木恵子、中谷勇一、林大造、山田千恵子、細川裕子、斉藤容子

団体: 西受寺仏教婦人会、横須賀の災害について考えよう

会員

・正会員

個人: 浅野寿夫、芹田健太郎、村上忠孝、島田誠、牧田聡、圓城啓彰、室崎益輝、藤野達也、大谷成章、吉富志津代、西正興、草地とし子、橋口博文、榛木恵子

NPO: 阪神高齢者・障害者支援ネットワーク

団体: 神戸YMCA

・賛助会員

個人: 白木士郎、西田三恵子、不破雅実、藤原ミサ子、池見宏子、岩国正次、栗原謙治、相川康子、酒巻佐代子、鈴木嶺、瀬川智子、井上雅楽緑、北茂紀、遠周龍子、岩崎信彦、岡本千明、村田豊延、久永亨、庄司俊恵、法化図知子、飯塚明子、成毛典子、宇田川規夫、岡本千明、鈴木嶺、飛田雄一、菊田歌雄、鶴飼愛子、岸田三枝子、折園明敏、古本京子、片岡幸壱、貫名美鈴、細谷祐司、上田耕蔵、中村安秀、玉岡昇治、折口富美子、北茂紀、中谷勇一、山田千恵子

NPO: 小さな友の会、アート・サポートセンター神戸、

団体: 林山朝日診療所

終わりに

前号のCODEレターをお届けしてから、久しぶりの発行となってしまいました。この度、発行が遅れ、みなさまへのご報告が遅れてしまったことをお詫びいたします。次号では、各継続事業の詳細や、また新たな動きについてお伝えしていきます。